

アクティブラーニングを取り入れた自律英語学習支援について —オリジナルな英語学習方法について考えよう—

坂田 浩（徳島大学国際センター）

1. なぜ、「自律英語学習」が必要なのか？

「中学校から大学までの8年間、英語の勉強をしてきても全然話せないよね…」という批判をよく耳にしますが、みなさんは実用的な場面で使えるだけの英語力を身に着けるのに、一般的にどのくらいの学習時間が必要だと思いますか？私たちの経験からも分かると思いますが、日本人が実用的な英語力を身に着けるには非常に長い時間が必要となります。一説では3,000～5,000時間におよぶ「教師の指導による学習」(Guided Learning)が必要であるとも言われていることを考えれば、非常に長い時間をかけていく必要があることが分かると思います。

ここで、中学校から大学2年生教養課程終了時までに学校が提供する英語授業時間を見てみると、合計しても約800時間となっており、実用的な英語力を身に着けるために求められる時間数からはかなりかけ離れたものとなっていることが分かります。もちろん、塾や英会話学校に行ったりする方もいらっしゃるのですが、個人差はかなりあるかと思いますが、大学終了後少なくとも1,000時間程度の学習が必要となる場合が多いようです。このことは、実用的な英語力を身に着けるには、すべての教育課程を修了した後に、教師などからの指導を受けずに1,000時間(=毎日2時間で1年半)という長期間にわたる英語学習を自らの手で行っていく必要があることを意味しており、この長期間にわたる自律的な英語学習を実践できるかどうかは今後の日本人の英語力を大きく左右することになると考えられているわけですね。

2. Learning How to Learn と英語カリキュラム

現在、英語教員を中心に徳島大学での英語カリキュラムの変更を検討していますが、全体として

は「学生の自律学習を促進する」ことを目的としたカリキュラムになる予定です。この自律英語学習を目標としたカリキュラムのベースになると個人的に考えているものが、今回皆さんにご紹介する「Learning How to Learn (LHL)」という英語自律学習支援ワークシートです。

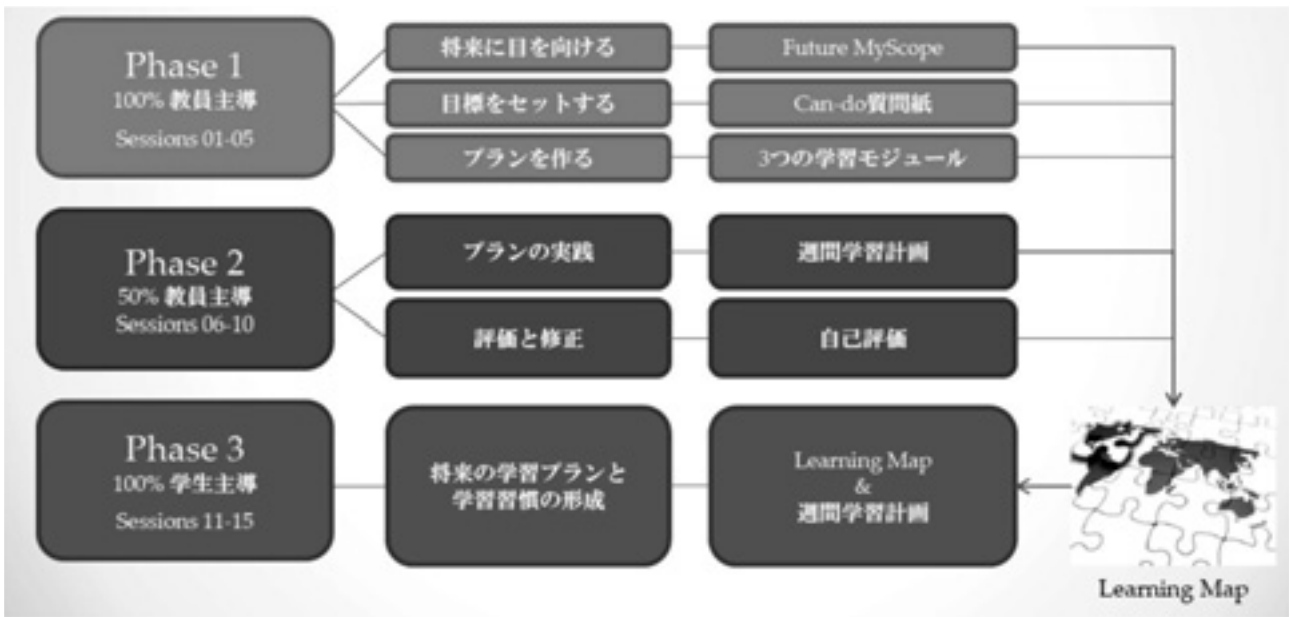
実際に自分の力で英語の勉強をしようとした方は理解できると思うのですが、何より難しいのは「継続すること」だと思います。文法や語彙の習得も確かに大変ですが、「同じ問題集を繰り返し解いてみる」、「比較的簡単な小説を3回繰り返し読んで読む」などのトレーニングを継続的に行うことで、少しずつであっても向上していくと期待できるので、いわゆる「三日坊主」で学習を怠ってしまい、最終的に英語学習を中断してしまうと、英語力の向上はほとんど期待できないでしょう。

では、英語学習を継続するためには何を、どのようにすれば良いのでしょうか？前述のワークシートLHLでは、そのためのヒントをいくつか紹介しています。

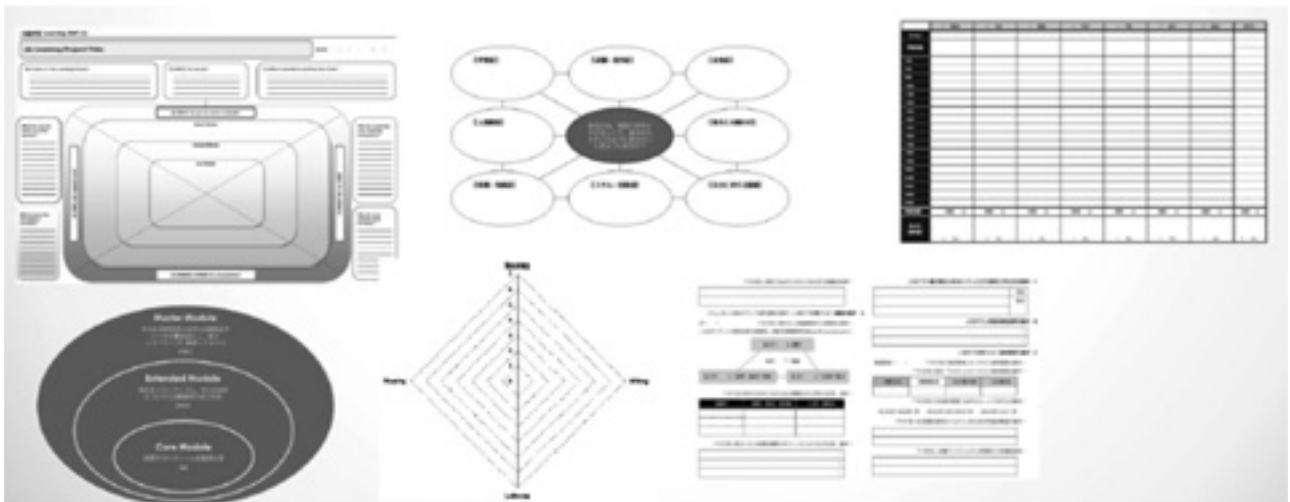
3. 継続的自律英語学習支援を体験

今回皆さんに紹介するワークシートLHLは、継続的な英語学習を実現するためのいくつかのツールを提供しています。主なところでは、(1)学習目標・目的の設定、(2)学習時間と学習内容の設定と管理、(3)学習の評価と再構築、(4)メンタル的な側面での対応、という4つに関する具体的な方法を紹介しています。今回は時間的に限られているのでどこまでできるかは分かりませんが、参加者の皆さんに授業でやっていることを体験してもらい、利用可能なアイデアや実践があれば、活用するための方法についてディスカッションをしたいと考えています。

・ワークシートの構成



・ワークシートで使われている様々なツール



・私たち教員ができることは…

• So, can you bring the horse to the water and make him drink it?



No, but perhaps we can show them how to drink it.